



国際会長 (IP) Jennifer Jones (オーストラリア)

“Building today for a better tomorrow”

「よりよい明日のために今日を築く」

アジア太平洋地域会長 (AP) 田中 博之 (東京多摩みなみ)

“Action!” 「アクション」

東日本区理事 (RD) 山田 敏明 (十勝)

「勇気ある変革、愛ある行動！」

“Innovation with Courage, Action with Heart”

湘南・沖縄部部长 (DG) 森田 幸二郎 (沖縄)

「ワイズを社会に広める基盤の再構築をする」

横浜クラブ会長 (CP) 古田 和彦

「YMCA、地域、ワイズメンと共に！」

“With YMCA, With Community, With Y's Men!”

会長 古田 和彦  
副会長 金子 功  
書記 古賀 健一郎  
会計 大高 治  
直前会長 金子 功

監事 松島 美一  
ブリテン 伊藤 誠彦  
担当主事 青木 一弘

### <今月の聖句>

古田 和彦

「彼が刺し貫かれたのはわたしたちの背きのためであり、  
彼が打ち砕かれたのはわたしたちの咎のためであった。彼の  
受けた懲らしめによってわたしたちに平和が与えられ、  
彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた。」

(イザヤ書 53 章 5 節)

### 今月のひとこと

#### 教会創立記念日に寄せて

#### —新島襄と横浜海岸教会—

古田 和彦



私の属する横浜海岸教会は日本本土  
における最初のプロテスタントの教会  
として、1872(明治5)年3月10日に創  
立しました。そこで、3月10日に近い  
主の日(日曜日)に創立記念の礼拝・  
感謝の愛餐会を行っています。今年は  
148周年になります。愛餐会では、創  
立時のエピソードを会員が担当して語るのですが、今年は、  
私とその役割を与えられ、初代牧師に、新島襄を迎えたいと  
の動きについて語るようになっていました。しかし、残念な  
がら、新型コロナウイルス感染症のため、愛餐会は延期です。  
せっかく準備しましたので、その一部を本紙で紹介させてい

たきます。

新島襄は1843(天保14)年、江戸・上州安中藩江戸屋敷で、  
安中藩士 新島民治の子として産まれました。本名は七五三  
太(しめた)と言います。女子が4人続いた後の初の男の子  
が生まれたので祖父が「しめた」といったことから命名され  
たとの説があります。元服後、幕府の軍艦操練所で洋楽を学



横浜海岸協会

ぶなか、ある日、アメリカ人宣教師が訳した漢約聖書に出会い、「福  
音が自由に教えられている国に行くこと」を決意し、当時禁止され  
ていた海外渡航を思い立ちます。  
そして、1864(元治元)年6月14  
日(旧暦)函館港から出国、上海  
で乗り換え、1865年7月ボストン

に到着しました。なお、この渡航の船中ではジョーと呼ばれ  
ていたことから、帰国後は「襄」と名乗  
るようになりました。1866(慶応2)年  
12月、アンドーヴァー神学校付属教会で  
洗礼を受けクリスチャンとなります。  
1870(明治3)年アマースト大学卒業。理  
学士。日本人最初の学士の学位を取得し  
ました。同大学ではクラークから化学の授業を受けていて、  
この縁でクラークは札幌農学校に来ることとなったのでした。  
新島は当初、密航者として渡米したのですが、初代の駐米公  
使森有礼によって正式な留学生と認められ、その後、新島の  
語学力が買われ、岩倉使節団の通訳として重用され、ニュー  
ヨークからヨーロッパ諸国を歴訪しました。そして、1874(明  
治7)年、アンドーヴァー神学校を卒業し、1875(明治8)年  
以降、日本への宣教活動に従事することになります。



新島 襄

この1874年、横浜公会(現横浜海岸教会)では、仮牧師と

## <2020年3月例会実績 中止>

在籍者	出席者	出席率	B	F
12名	メソ 0名 メネット 0名 コメット 0名 ビジター 1名 ゲスト 1名 合計 0名	0% (メーキャップ名を含む) 前月修正出席率 %	今月分 切手 現金 年度累計 切手 現金	0g 0円 0g 0円

## <4月の行事予定>

### BF、メネット

日	曜	時間	行事内容	場所
9	木	18:30	横浜クラブ第一例会	中央Y 中止
18	土	15:00	第3回部評議会	持ち回り
23	木	17:00	横浜クラブ第二例会	中央Y 中止

してバラを擁していますが、日本人牧師を迎えたいと考えます。そのあたりの事情を植村正久全集第3巻626ページに次のように記されています。「すでに教会は組織された。バラは仮牧師である。宣教師らの態度は教派主義に傾かんとす。このうえはせめて日本人の信者のみにても一致共同して、その主義を貫かん云々。公会（横浜海岸教会）では、当時、米国アモスト大学に在りて会衆派に属し、神学を学びつつありし新島七五三太を牧師として招聘するに決し、招聘状を發したのであろうか。彼のロマンチックな洋行談やその後の苦学、また彼が岩倉、大久保、伊藤等の大使一行に重く用いられた評判云々。海岸教会の人々は遂に議を決して、これを牧師として招聘することになった。月給は金二十五両(植村が記した1922年当時では300円に相当)と決めた。微力なる教会としては大々の奮発である。奥野昌綱が招聘の書簡を認めたのであるが、大徳望新島先生座下に呈すと前置きしてずいぶん長文のものであった」。(一部口語に直し、一部略している)それに続く奥野の招聘状は略します。

ところが、奥野昌綱の熱意溢れた招聘状が新島に届かなかったといわれています。上記の植村正久全集第3巻648ページに「かの書状は未だかつて新島氏の手には達せざりしとの事実を確かめたり」と植村が書いております。このことについて、届かなかったはずがないとその後の研究者は考えます。新島はこの招聘状を送るかなり前からバラ宣教師と交流がありました。新島襄全集6には招聘状を送る6年前、1868年3月13日アマーストからバラ宣教師に宛てた手紙があります。新島が国禁を犯して脱国した身でありながら、割合早くから故国の両親などと文通したり、送金したりできた背後には宣教師らの助力がありました。そして、1874年ですが、この招聘状だけがいきなり新島に送られたわけではなく、新島は別の経路からもこの招聘状が送られてくることを知っていたはずで、1874年2月24日付のバラの新島宛の手紙が見つかっています。この手紙の中で、バラは同じ便で送られる横浜公会からの招聘に応ずるよう強く勧めるという意味のことを書いています。アメリカへの船便がそう頻繁にあるはずはなく、同じ便で招聘状も送られたと思われる。バラの手紙が

新島の手元に届いていますので、招聘状もまず無事に新島の手元に届いたと考えられます。例え、届かなかったとしても、バラの手紙を通して招聘の事を知った新島は、少なくとも問い合わせの手紙を出せたはずと考えられます。つまり、新島は手紙を受け取っても返事を出さなかったのではなかろうかと考えるわけです。

新島は会衆派に属するキリスト者、また、日本に派遣された宣教師との立場で翌1875年に帰国します。そして、その考えに基づく同志社を建学します。新島は、奥野ら横浜公会を動かしていた無宗派主義の精神に同意できなかったのではないかと、どのように断るか決めかねて、結局黙殺することになったのではないだろうかと考えられます。

## 「3月第一例会報告」

3月第一例会は新型コロナウイルス感染防止の観点から開催を自粛し、中止いたしました。

## 「横浜YMCA 総主事就退任式報告」

古賀 健一郎

横浜YMCAの総主事就退任式が3月19日(木)19:15-19:45、横浜中央YMCAのチャペルで行われた。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当初の予定されていた、3月21日の横浜YMCA発祥の地、横浜海岸教会での総主事就退任式を、日時と会場を変更し、理事・常議員、元総主事などが列席して執り行われた。

司式の荒井仁牧師(日本キリスト教団紅葉坂教会・横浜YMCA理事常議員・横浜中央YMCA運営委員長)により式が進められ、12年間総主事を務められた田口努総主事から佐竹博新総主事に聖書が引き継がれた。



田口前総主事から  
佐竹新総主事への聖書引継

田口努総主事が特別な想いをもった愛唱讃美歌の一つ『496番(讃美歌21)』を賛美し、佐竹博新総主事が選んだヨハネによる福音書13章3~5節の聖書箇所を、荒井仁牧師が朗読された。

その後、荒井仁牧師は下記のように奨励された。(抜粋)  
【田口さんの愛唱讃美歌『496番(しずけきタベの)』の作詞者、アルバート・ベネットは、バプテスト教会の宣教師として横浜で活動し、田口さんの所属するバプテスト教会の基礎を築いた。また、佐竹さんはバプテスト教会と深い関わりのある関東学院で学び、この讃美歌をお二人とも大切にされておられる。(大島良雄 関東学院大学教授がまとめた)『ベネット宣教師の歩み』によると、1896年三陸大津波が東北地方を襲った時、ベネット宣教師がその救援活動に奔走し、被災者に真摯に向き合っており、『仕える姿勢』を大切にされてきたことがわかる。今日において自然災害が多発する中で、YMCAが各地で支援活動を行っているが、その原点となるような姿を、

ベネット宣教師の働きから見る気がする。

それは、佐竹さんが選んだ聖句にも共通するものがある。聖書箇所は弟子の足を洗うイエスの聖書箇所である。イエスは弟子たちと囲む最後の晩餐の時に、弟子一人一人の足を洗った。当時足を洗う仕事は奴隷の仕事であり、社会的に低い立場にある人の仕事であったが、先生であるイエスが自ら身を低くして、心をこめて弟子の足を洗った。イエスは教師として弟子たちを導きながら彼らの足元までも心配って、一人一人に仕えられた。

佐竹さんにこの聖句を選ばれた理由をお尋ねすると、「総主事として上に立つようだけれども、上に立つのではなく、『仕える姿勢』を大事にしたい。」とのご自身の想いを話された。総主事として忘れてはならない心構えであると思う。それはベネット宣教師が被災地で見せた姿でもあり、イエスが人生の最後で最も大事な在り方として弟子たちに示された姿でもある。これは、YMCAにつながる一人一人にとっても、いつも心に留めるべき姿でもある。私たちはこの聖句を心に刻みながら、新たな総主事と想いを一つにして、『みつかる』『つながる』『よくなっていく』というYMCAの形成に励んでいきたい。】

佐竹博新総主事は「総主事就任を神様から与えられた召命として受け入れ、その努めを果たすことを約束し、会員、職員、関わる方々と、国内、世界のYMCAと交わりの中で横浜YMCAの発展に力を尽くすことを志し、世界の平和と幸福の実現のために諸々の判断をするときに聖書と祈りによって神様の助けを求めながら最善をつくす」と新総主事就任の誓約をされた。

田口努総主事は4月から日本YMCA同盟総主事として全国のYMCA運動を推進され、佐竹博新総主事は4月1日からの着任となる。お二人ともに、ご自愛の上、更なるご活躍と益々のご発展をお祈りする。

## 「近況 心がけ次第」

金子 功



私の書棚には、退職したらゆっくり読み返してみよう、聴き直してみよう、観直してみようと集めた書籍、CD、DVD等が並んでいる。退職してすでに15年以上になるが、これまで余りゆったりした気分が、それらを取り出すこともなかった。退職後は横浜YMCA

のレイパーソンとして、又、ワイズメンズクラブの諸活動にあまり暇を持て余すことがなかったからである。

ところが、この2月から3月にかけて、新型コロナウイルス感染予防のために、私が関係する会合、参加を予定していた各種行事がすべて中止になった。横浜クラブの3月の例会も中止になったほどである。

退職して以来、これほど暇な時間ができたことはなかった。ゆっくりいい音楽でも聴こう。書棚から取り出したのは、20世紀最大の巨匠と称されるパブロ・カザルスが1961年11月13日、ケネディー大統領の招請によりホワイトハウスのイーストルームで演奏したパブロ・カザルス不滅の記念碑と題するCDであった。私はこのCDに納められている最後の曲、

鳥の歌～カタロニア民謡に何故か強く心を惹かれている。

平和運動家としても良く知られているカザルスは、1971年10月24日の国連デーにニューヨークの国連本部でこの鳥の歌を演奏し「私の故郷カタルーニャの鳥はピース、ピースとなくのです。」と語ったエピソードは伝説として語られている。次いで取り出したのは、「パブロ・カザルス 喜びと悲しみ」と題するパブロ・カザルスの生涯を刻銘に記したアルバート・E・カーン編纂の朝日選書出版の書籍であった。この本を読み返すことにより私のパブロ・カザルスに対する畏敬の念は更に深まった。

この一連の出来事は、新型コロナウイルス予防対策がきっかけではあったが、自分の心がけ次第で容易に享受できる喜びの一つであることを自覚した。

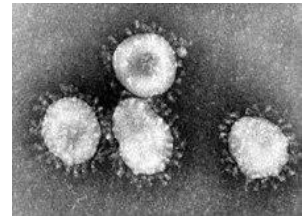
## 「新型コロナウイルス」一命の危機からの復活—

大江 浩



新型コロナウイルスのパンデミックは、未曾有の「ウイルス災害」として全世界を脅かしています。世界181の国と地域で感染者1,141,902人/死者63,172人(4月5日午前10時半時点)にのぼり、日本政府による「緊急事態宣言」が目前となっています。新型肺炎のマイクロサイズの病原菌の「見えない脅威」が地球全体を恐怖と不安に陥れています。

東京都では4月4日に118人、5日に143人と100人を超える新規感染者の増加により、「ロックダウン(都市封鎖)」の懸念も現実味を帯びてきています。



4月から勤務する社会福祉法人興望館(東京都墨田区)は約170名の保育園児(0歳児～5歳児)、約130名の学童保育のメンバー(新1年生～6年生)が休みなく通っていて、賑やかな子ども達の声に毎日元気をいただいています。が、一方、「保育」は“もう一つの生活”の場でもあり、保育という「濃厚接触(?)」の現場では、感染リスクとの闘いという緊張とストレスの連続です。「関係性を大切に」「ケアする」「子どもと向き合う」「気遣いの言葉を掛ける」「時に抱擁をする」ことが感染リスクになるという、相反する深いジレンマを抱えています。

3月号のブリテン「今月の一言」で、途上国の医療過疎地での活動を使命とするJOC Sワーカーやその精神的支柱であるWHOのアルマ・アタ宣言(1978年)について触れました。

この新型肺炎禍に伴う懸念材料の一つ目は、欧米の感染者数や経済的損失は日々ニュースになりますが、アフリカや中南米などの医療に乏しい地域の状況が報じられないことです。JOC Sワーカーの現場の多くの疾病、即ち日常的なマラリア、結核やHIV/AIDSやハンセン病などの感染症=「顧みられない熱帯病(Neglected Diseases)」との闘いから見える現実、は「顧みられない人々の命」です。貧困と病に加え社会的な格差や社会的・構造的な暴力と隣り合わせにある人々は、日頃から「忘れ去られている存在」です。命の格差と経

済の格差の問題が直結しています。顧みられない命は、人権問題でもあることを痛感しています。

二つ目は、貧しく弱くされている人々への差別・偏見やヘイトクライムのことです。鬱屈したストレスの発散がそのような人々をターゲットにし、人々への見えない暴力によって共に生きる世界が分断されています。

三つ目は、真実よりも憤りと怒りにまかせたネット社会でのいじめや Fake ニュースの横行です（かつて関東大震災の時にもデマによる在日コリアンへの虐殺が発生しました）。不安が増大し、疑心暗鬼が加速化し、真実がかき消されています。

四つ目は、在宅を余儀なくされ、感情のコントロールが困難な子どもたちや家族内のストレス増大による関係性のひずみによってDVや虐待が増えていることです。

五つ目は、「社会的距離」の名の下に、人々の間に距離を置くことが日常化し、対面の機会が奪われていくことです。新しい働き方や新しい対話の在り方が求められる一方で、失われていくもの、見えない大切なものを見据えていく冷静さを持ちたいと思います。

4月12日にはイースター（復活祭）を迎えます。今、復活の姿は見えません。しかし、その事実を信じたいと思います。目の前にいる子どもたちの未来のためにも。

## 第二例会報告

古田 和彦

日時：3月26日（木）17:00~18:10

場所：横浜中央YMCA 811教室

出席者：青木、伊藤、大高、古賀、古田

協議・確認・検討事項

### 1. 行事予定

・資料により予定が示されたが、新型コロナウイルス感染のため流動的である。

### 2. 協議・報告事項

#### 1) 4月以降の例会について

・4月例会も3月同様、新型コロナウイルスのため中止することとした。なお、その後についても、予断が許さないので、月ごとに確認検討していく。例会での卓話をお願いしている方々には申し訳ないが、原則、繰り延べしてお願いすることとしたい。また、部長の公式訪問はお断りする。

#### 2) 4/12. 13の東日本区第3回役員会は中止となった。

3) 4/18 予定の部評議会はメール・ファックス等での持ち回り開催とする旨連絡があり了解した。（後日）

4) 12/12に予定している当クラブ創立90周年事業が現在の計画通り進められるかどうか、その判断の期限について検討していく。

5) ブリテンバックナンバー調査結果の報告があった。

#### 6) 入会者・転入会者・退会者

- ・入会者：5/1 佐竹博氏（横浜YMCA総主事）
- ・転入会者：4/1 奥蘭一紀氏（担当主事、厚木クラブから）
- ・退会者：3/31 青木一弘氏（担当主事）

\*入会式を5月例会に予定する。書記から必要な手続きを進める。

7) 青木担当主事の感謝会は後日改めて実施する。

8) 4月ブリテン計画を了承した。

9) 例会を行う際の弁当は中止する。

10) 4月第2例会の開催方法については改めてメール等で協議して決定する。



担当主事 青木 一弘

### ●総主事就退任式のご報告

3月19日に横浜YMCAの総主事就退任式が行われました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当初の予定されていた、横浜海岸教会での総主事就退任式を日時と会場を変更し、理事・常議員、元総主事などが列席して執り行われ、12年間総主事を務めた田口努総主事から佐竹博新総主事に聖書が引き継がれました。今後、田口総主事は4月から日本YMCA同盟総主事として全国のYMCA運動を推進します。また、佐竹新総主事は4月1日から着任となります。これからも、横浜YMCAは地域や世界の皆さんとともに、歩みを進めてまいります。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

### ●YMCA ウェルネスデリバリー

新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う、小中高の臨時休校を受けて、横浜YMCAでは、活動を制限されている子どもたちだけでなく、保護者をはじめとしたご家族や地域の皆様の健康生活を支えるべく、「YMCA ウェルネスデリバリープロジェクト」を発足しました。

このプロジェクトは、YMCAがこれまで培ってきた運動におけるノウハウを生かし、さまざまな運動能力の基礎となるコーディネーション運動を中心とした、自宅などでも簡単にできる運動や家族でできるトレーニングなどを、動画配信していくサービスです。今後も、ココロとカラダの健康のために毎日動画を配信していきますので、ご覧ください。

※詳しくは、横浜YMCAホームページ→トップページ→プログラム・イベント一覧→元気なカラダは家でも作れる！「YMCA ウェルネスデリバリー」をご覧ください。

### 4月例会プログラム

4月度の第一例会は、新型コロナウイルス感染予防への配慮から中止することにいたしました。

### 5月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
14	木	18:30	横浜クラブ第一例会	中央Y
28	木	17:00	横浜クラブ第二例会	中央Y
30	土	17:00	横浜YMCA会員総会	とつかY

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA奥蘭一紀にご連絡下さい。

メール [okuzono\\_kazuyoshi@yokohamaymca.org](mailto:okuzono_kazuyoshi@yokohamaymca.org)

電話